

# AIRCRAFT, DEFENSE & SPACE

## 航空・防衛・宇宙

### 2024年度の概況

防衛力整備計画の拡充への対応等により、艦艇や宇宙機器が増加したほか、民間航空機が増加したことなどにより、連結受注高は、前年度を上回る2兆1,001億円となりました。

売上収益は、飛しょう体や防衛航空機等の防衛関連製品、民間航空機が増加したことなどにより、前年度を上回る1兆306億円となりました。

事業利益は、飛しょう体や防衛航空機等の防衛関連製品が増加したことなどにより、前年度を上回る999億円となりました。



787型機の主翼

### 民間機

2,030億円

主要な製品とサービス

・民間航空機  
(構造Tier1事業、  
アフターマーケット  
事業)

### 防衛・宇宙

8,276億円

主要な製品とサービス

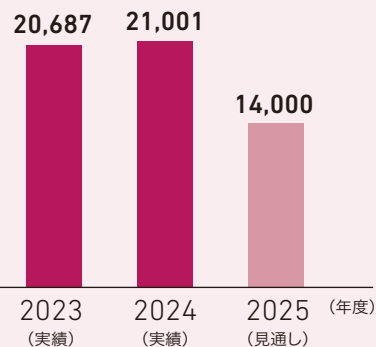
・防衛航空機  
・飛しょう体  
・艦艇  
・特殊機械(魚雷)  
・特殊車両  
・宇宙機器

2024年度  
売上収益

10,306  
億円

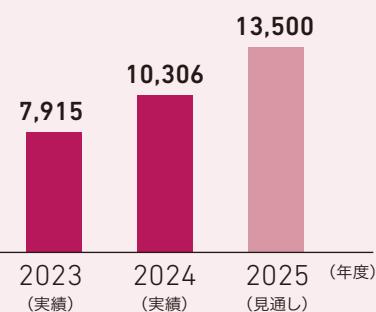
### 受注高

(億円)



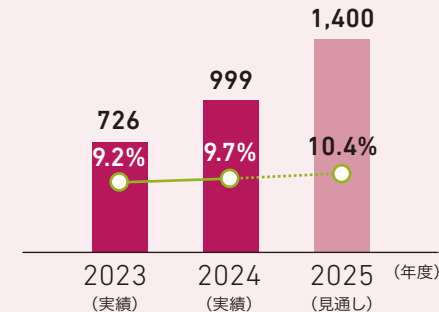
### 売上収益

(億円)



### 事業利益／利益率

(億円)



## AIRCRAFT, DEFENSE & SPACE

### 事業環境と中長期の重点戦略

#### 事業環境

民間航空機分野では、経済成長に合わせ旅客需要が長期的に拡大していくことが見込まれています。品質問題による特定機種の生産制限や、業界全体にわたる人手不足に起因するサプライチェーンの供給制約に伴い生産機数が停滞していることから、機体メーカーの受注残は過去最高の水準に達しています。各国の政策に関する懸念もありますが、旺盛な需要を背景に、今後は生産機数、運航機数ともに増加すると予想しています。また業界では、今後、CO<sub>2</sub>排出量削減の動きからSAF※1（持続可能な航空燃料）導入や電化等の環境適応技術への対応、無人機や空飛ぶクルマ等の次世代空モビリティの社会実装などが進むことが期待されています。

防衛分野では、国家安全保障強化の機運の高まりを受けて、国の防衛力整備計画が大幅に拡充されました。防衛力の抜本的強化にあたって防衛力整備計画で示された7つの重視分野へ予算が重点配分されており、以前から当社シェアが非常に高い分野や当社製品や技術力によって貢献可能な分野が含まれています。

宇宙分野では、世界的な宇宙空間の利用の高まりを背景として、ロケットの打上げ需要が拡大しており、特に、国の新型基幹ロケットであるH3ロケットに対し、国内外の衛星事業者から多くの期待が寄せられています。

※1 SAF: Sustainable Aviation Fuel

#### 事業の状況

民間航空機分野では、構造Tier1事業において、設計・製造・認証プロセスのデジタル化に加え、先進複合材、高レート生産を実現する自動化の研究開発等を進め、新規プログラム参画に向けた取り組みを進めています。アフターマーケット事業では、CRJを主とする既存のMR0※2事業の生産性向上に加え、他機種整備の取り組みやコンポーネント修理事業、中古部品整備販売、AIを活用した航空会社の運航支援などにより規模拡大と収益力向上を図ります。さらに、航空機産業の最大市場である北米に複数有する拠点の一体運営を一層推進し、スタートアップ企業との連携なども含む新規顧客・周辺領域への事業拡大を推進していきます。また、新たな事業領域の開拓も目指しており、これまでの航空機開発・製造で培った技術を活かし、民生用途と防衛用途の両方に対応可能なデュアルユース無人機の開発も進めています。

防衛分野では、スタンド・オフ防衛能力、イージス・システム搭載艦や新型護衛艦など、複数の大型案件を受注し、当社の国家安全保障への貢献が期待されています。このほか、無人アセット防衛能力等の強化、従来装備品の能力向上や周辺分野の拡大等に応えることで、安全・安心な社会を支え続けていきます。

また、宇宙分野においては、H3ロケット3号機で初めて実用衛星を軌道に投入することに成功し、本格的な運用に移行する重要な一歩となりました。打上げ成功を積み重ね、社会に貢献できるよう、関係先と協力して進めていきます。

※2 MR0: Maintenance, Repair and Overhaul（修理、整備）

### FOCUS

#### 日本の大型基幹ロケット、H-IIAからH3へ移行

2025年6月29日（日曜日）午前1時33分03秒（日本標準時）、温室効果ガス・水循環観測技術衛星「いぶきGW」（GOSAT-GW）を搭載したH-IIAロケットの最終号機である50号機（H-IIA・F50）を打上げました。ロケットは計画どおり飛行、「いぶきGW」を所定の軌道に投入し、H-IIAは有終の美を飾ることができました。2001年の初号機打上げ以来、H-IIA/H-IIBを通じて53機連続打上げ成功となり、成功率は98.3%と、国際水準を上回る成功率を誇ります。

H-IIAの退役を以て、日本の大型基幹ロケットは後継機H3に移ります。H3は、2024年2月に打上げた2号機から4機連続で打上げに成功し、今後はH3が情報収集・地球観測・放送通信・科学探査・国際協力と、ますます重要性の増す日本の宇宙活動を支えていきます。さらに、国内ミッションに加え、需要が拡大する世界の衛星打上げ市場においても重要なプレーヤーとなるべく、打上げ成功を積み重ねてお客様の信頼を獲得していきます。



H-IIAロケット50号機